

# 麻疹ウイルス 脳内接種後のウイルスの性状変化

研究分担者: 福島県立医科大学医学部小児科学講座 細矢光亮

図1. 麻疹ウイルス遺伝子翻訳領域のアミノ酸変異

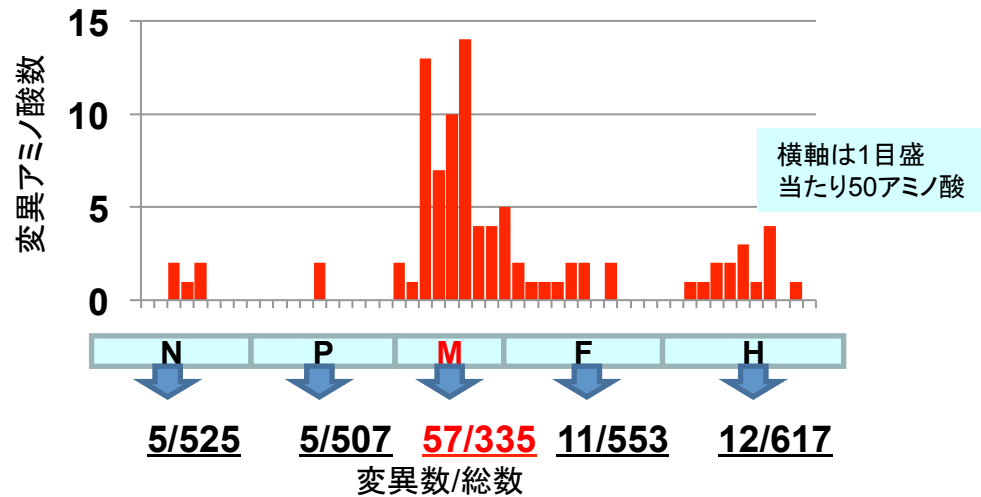
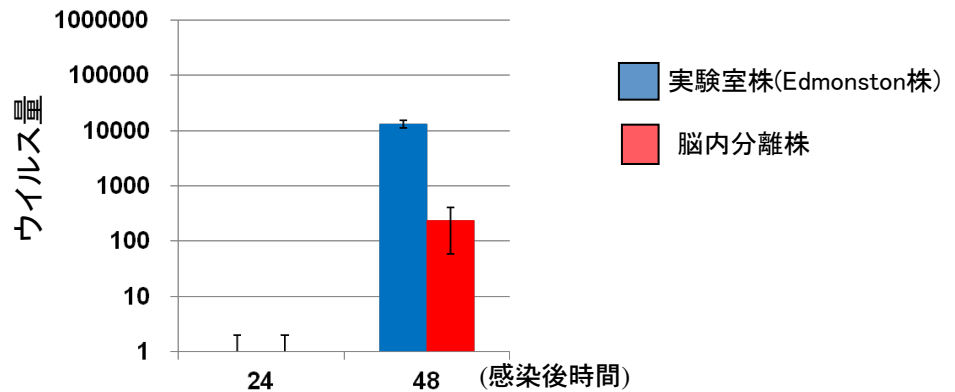


図2. 麻疹ウイルス増殖能の変化



## 解説

1. ノードマウスに麻疹ウイルス実験室株(Edmonston株)を脳内接種。死亡、あるいは倫理的エンドポイントで個体の脳を摘出し、脳ホモジナイズ液を作製した。その麻疹ウイルスの遺伝子、増殖能をEdmonston株と比較した。
2. N、P、M、F、H遺伝子の翻訳領域を解析では、M遺伝子において最も多くアミノ酸に変異がみられた。(図1)
3. 脳内に持続感染したウイルスは、Edmonston株と比較して、細胞へ感染後の上清のウイルス量は約100分の1に低下していた。(図2)